嘉田生崎小学校の在り方に関する
アンケート結果

令和８年９月
筑西市教育委員会

目次

Ⅰ　アンケート調査概要 1
　１　アンケート調査の目的 1
　２　基本的事項 1
　３　回答状況 1
　４　留意点 1
Ⅱ　アンケート調査結果 2
　問１　お子様は何年生ですか？【複数選択可】 2
　問２　１学年あたりのクラス数は、何クラスが望ましいですか？ 3
　問３　複式学級についてあなたの考えに近いものを選んでください。【複数選択可】 4
　問４　嘉田生崎小学校の児童数についてどう思いますか？ 5
　問５　嘉田生崎小学校は、学校の適正配置（統廃合等）についての検討が必要だと思いますか？ 6
　問６−１　検討するべきを選択した理由は何ですか？【複数選択可】 7
　問６−２　検討する必要はないを選択した理由は何ですか？【複数選択可】 8
　問７　今後の嘉田生崎小学校の適正配置の対応として、何が適当だと思いますか？ 9
　問８−１　義務教育学校の設置を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 10
　問８−２　小学校の統廃合を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 11
　問８−３　小規模校の維持を選択した理由はなんですか？【複数選択可】 12
　問８−４　その他を選択した理由は何ですか？【自由記述】 13
　問９　適正配置（統廃合等）を進める上で不安なことはなんですか？【複数選択可】 14
　問 10　学校の在り方や適正配置について、ご意見がある場合は、自由に入力してください。 15
Ⅲ　参考資料 18

Ⅰ　アンケート調査概要

1　アンケート調査の目的

学校の適正配置を検討するにあたって、現在、複式学級が編制されている嘉田生崎小学校の今後の在り方を検討する上での基礎資料とするため、嘉田生崎小学校区の保護者を対象にアンケート調査を実施するもの。

2　基本的事項

⑴アンケート名

嘉田生崎小学校の在り方に関するアンケート

⑵調査期間

令和８年７月 15 日～令和８年８月 16 日

⑶調査対象

嘉田生崎小学校の保護者及び嘉田生崎小学校区在住の未就学児の保護者：102 世帯

※　令和８年７月１日現在。

※　兄弟姉妹がいる場合でも、回答は１回のみ。

⑷調査方法

オンラインによる無記名のアンケート調査

※　嘉田生崎小学校の保護者に対しては、学校から「マチコミ」等の連絡手段で通知し、未就学児の保護者に対しては、教育委員会から通知文を発送して、回答を依頼。

3　回答状況

回答数：54 世帯

回答率：52.9%

4　留意点

・　小数点第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

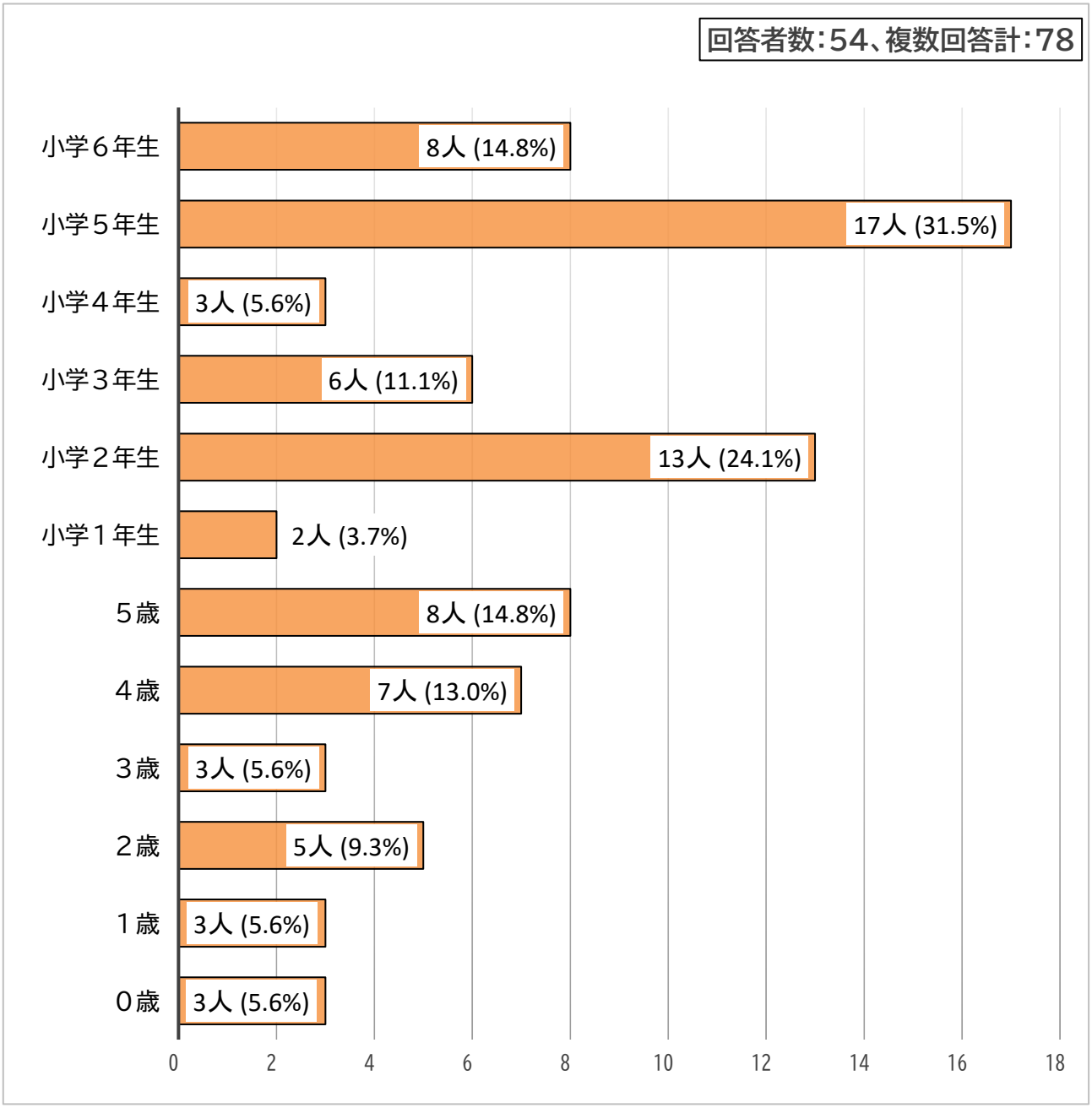
・　自由記述の回答は、基本的に誤字等の修正を除き、原文のまま掲載するが、個人が特定される可能性があるものは割愛する（学校の適正配置の検討においては、全文を適正に管理し活用する）。

Ⅱ　アンケート調査結果

問１　お子様は何年生ですか？【複数選択可】
※お子様が複数いる場合は、すべて選択してください。
※未就学の場合は、Ｒ8.7.1時点の年齢を選択してください。

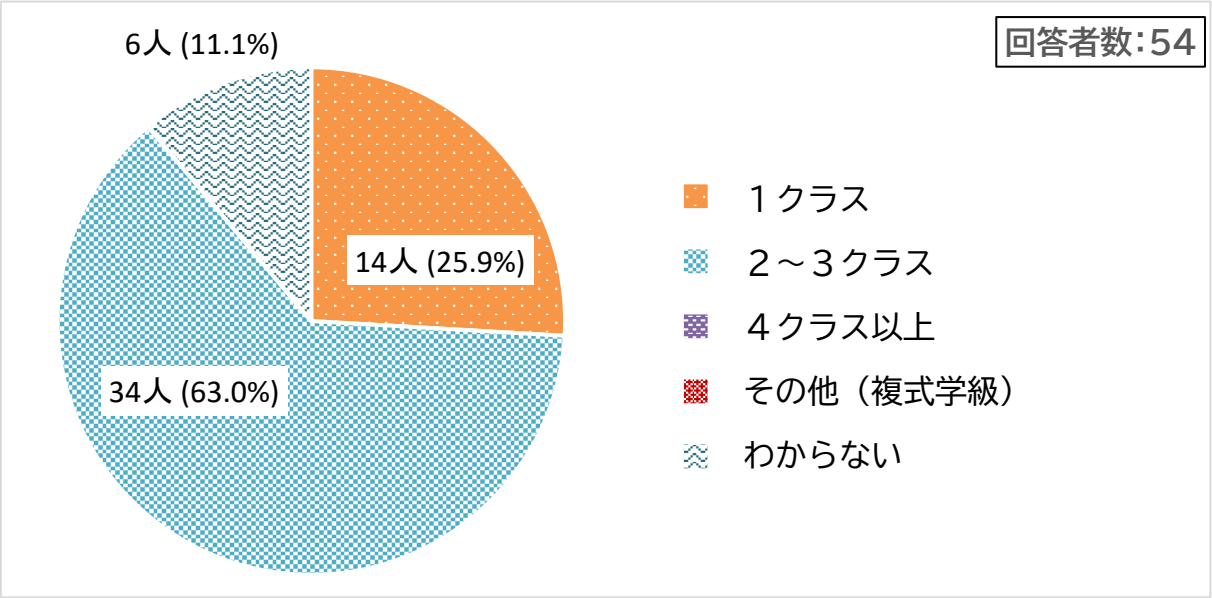
お子様の学年については、「小学校５年生」の回答が最も多くなっています。

なお、小学校１～６年生については、調査対象である未就学児の世帯で、兄姉が指定校変更により嘉田生崎小学校以外の小学校に通学している場合があるため、現在の嘉田生崎小学校の児童数より多くなることがあります。



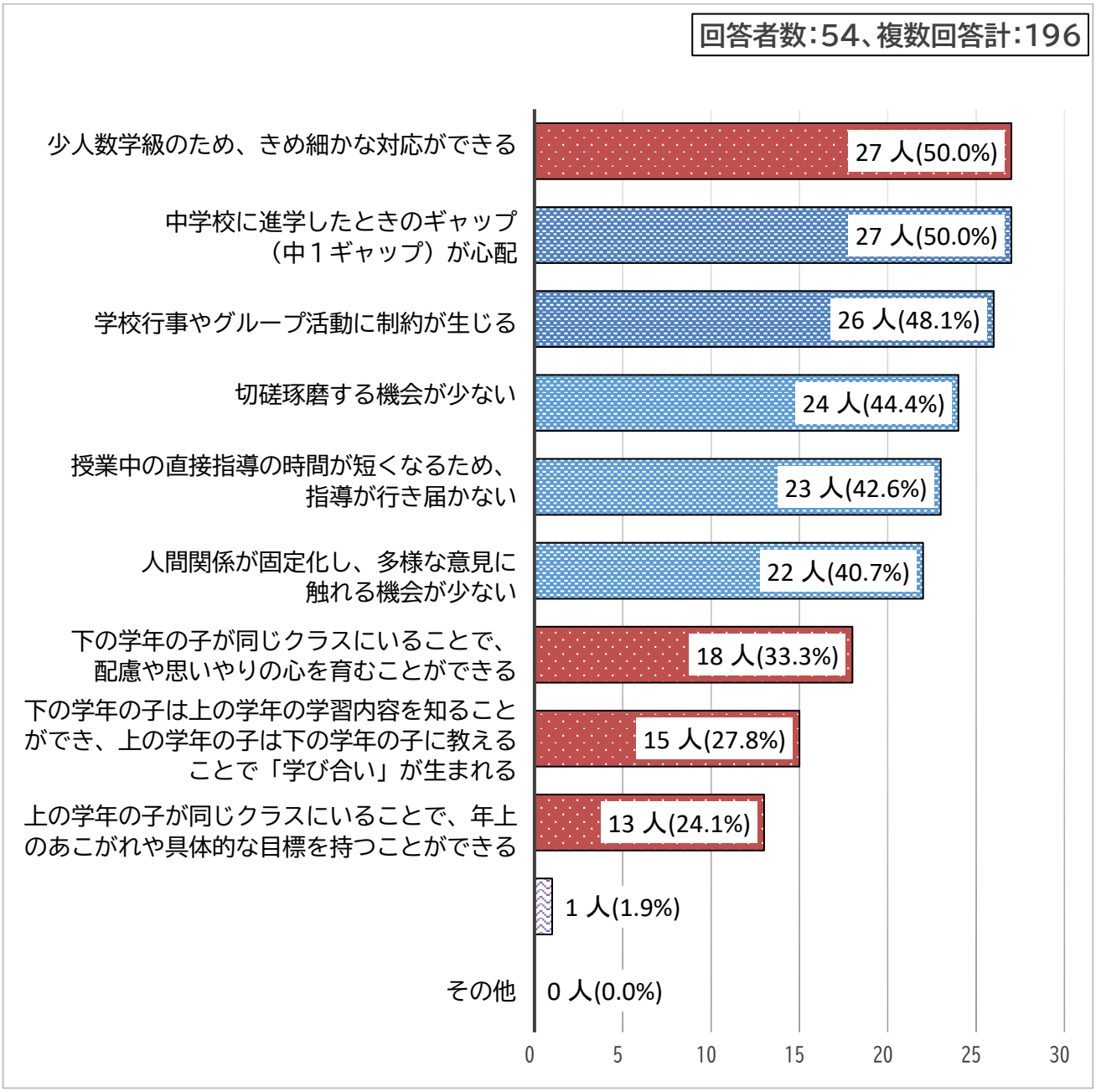
問２　１学年あたりのクラス数は、何クラスが望ましいですか？

１学年あたりの望ましいクラス数については、「２～３クラス」が最も多く、全体の 63.0%となっており、回答者の半数以上が選択しています。次に「１クラス」が多く 25.9%となっています。「その他（複式学級)」、「４クラス以上」は、０件でした。



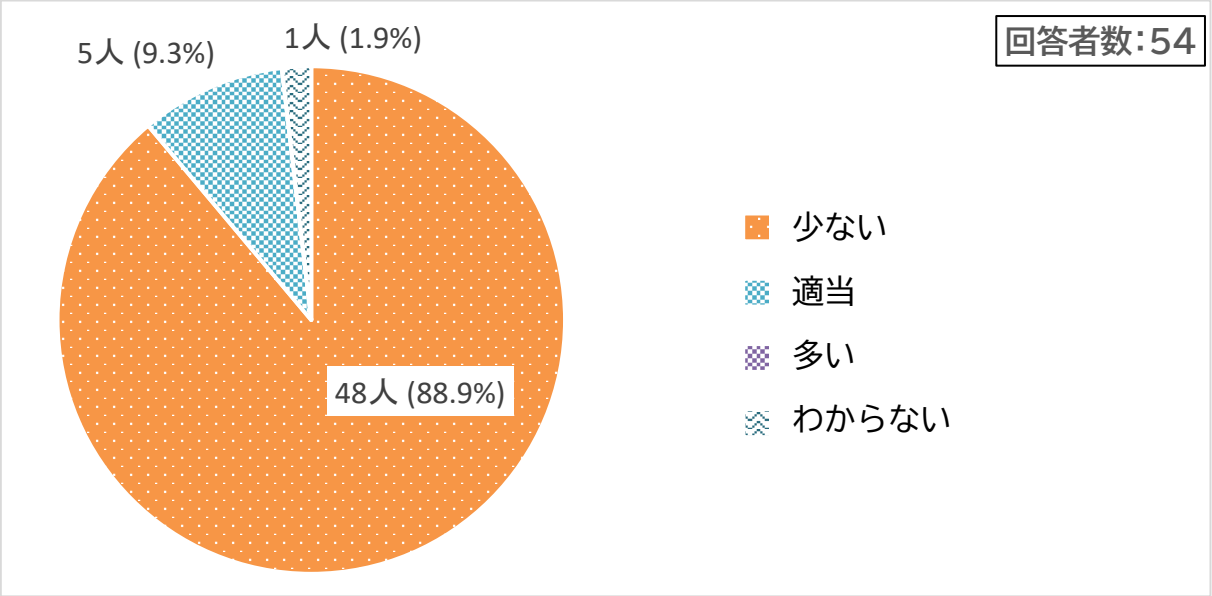
問３　複式学級についてあなたの考えに近いものを選んでください。【複数選択可】

複式学級については、「少人数学級のため、きめ細かな対応ができる」と「中学校に進学したときのギャップ（中１ギャップ）が心配」が同数で最も多く、回答者の 50.0%が選択しています。次いで、「学校行事やグループ活動に制約が生じる」が多い回答となっています。全体としては、ポジティブな意見に比べ、ネガティブな意見が上位に多い傾向がみられます。



問４　嘉田生崎小学校の児童数についてどう思いますか？

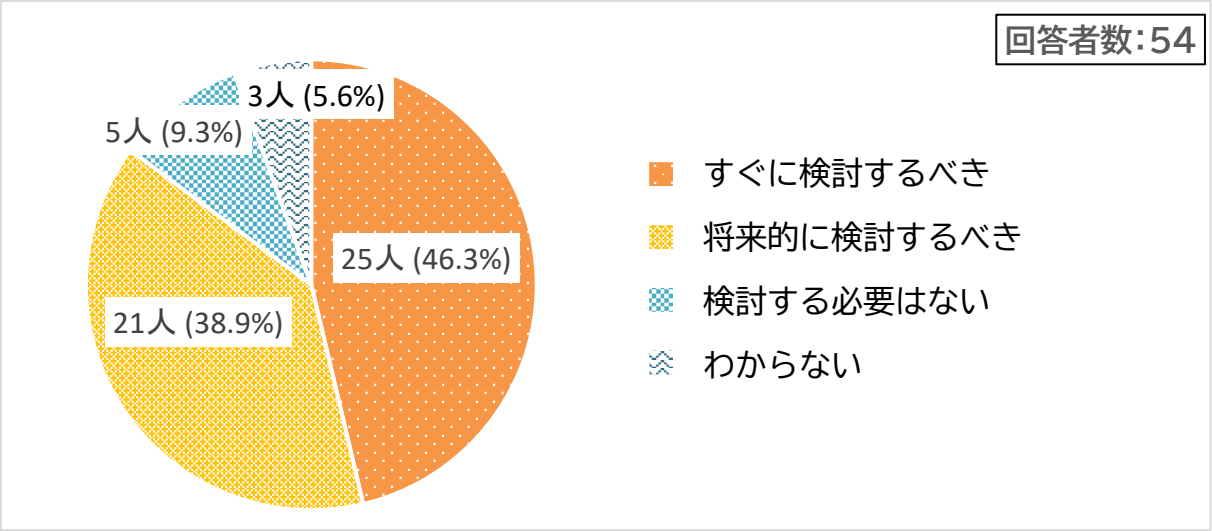
嘉田生崎小学校の児童数については、「少ない」が最も多く、88.9%を占めており、９割近くの回答者が少ないと考えています。

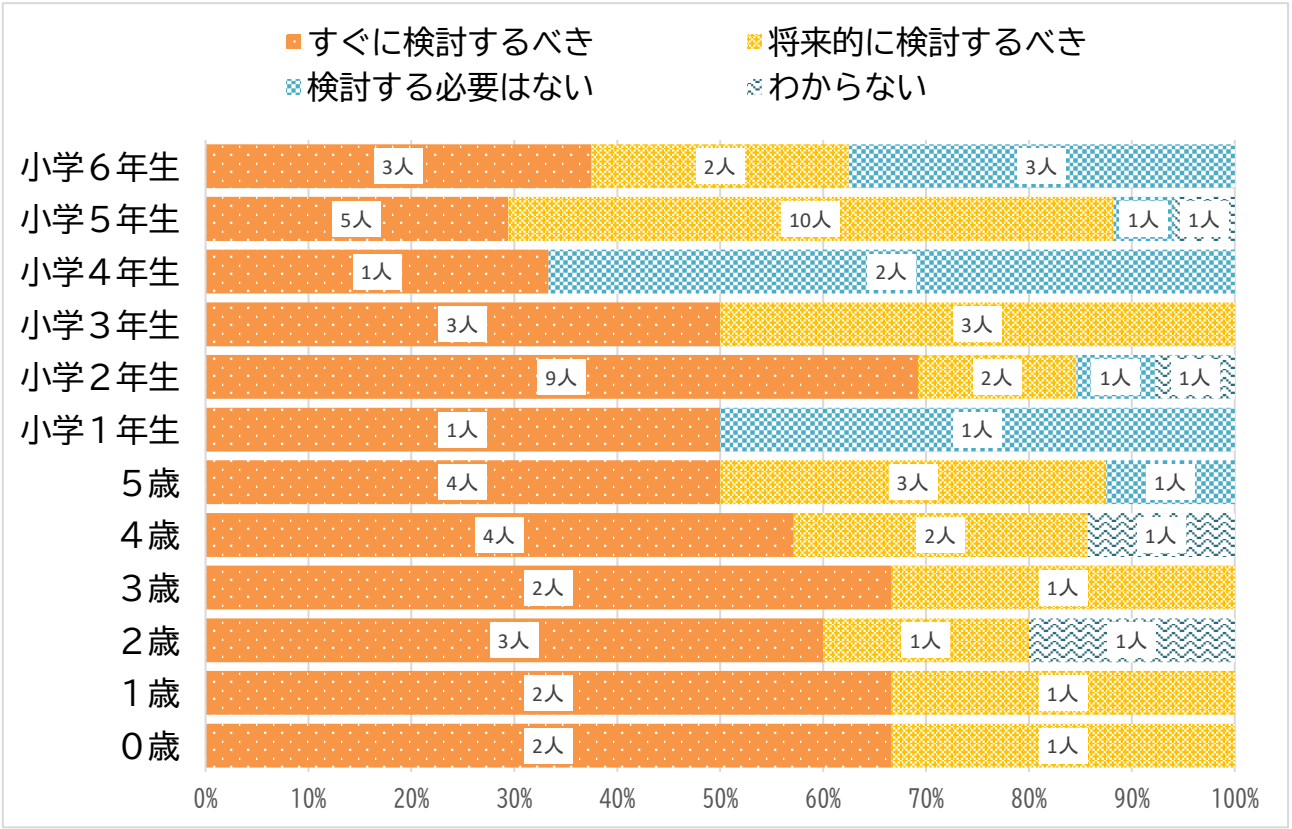


問５　嘉田生崎小学校は、学校の適正配置（統廃合等）についての検討が必要だと思いますか？

嘉田生崎小学校の適正配置の検討については、「すぐに検討するべき」が最も多い 46.3%。次いで、「将来的に検討するべき」が多く、38.9%となっており、二つを合わせると、「検討するべき」との回答が、全体の 85.2%を占めています。

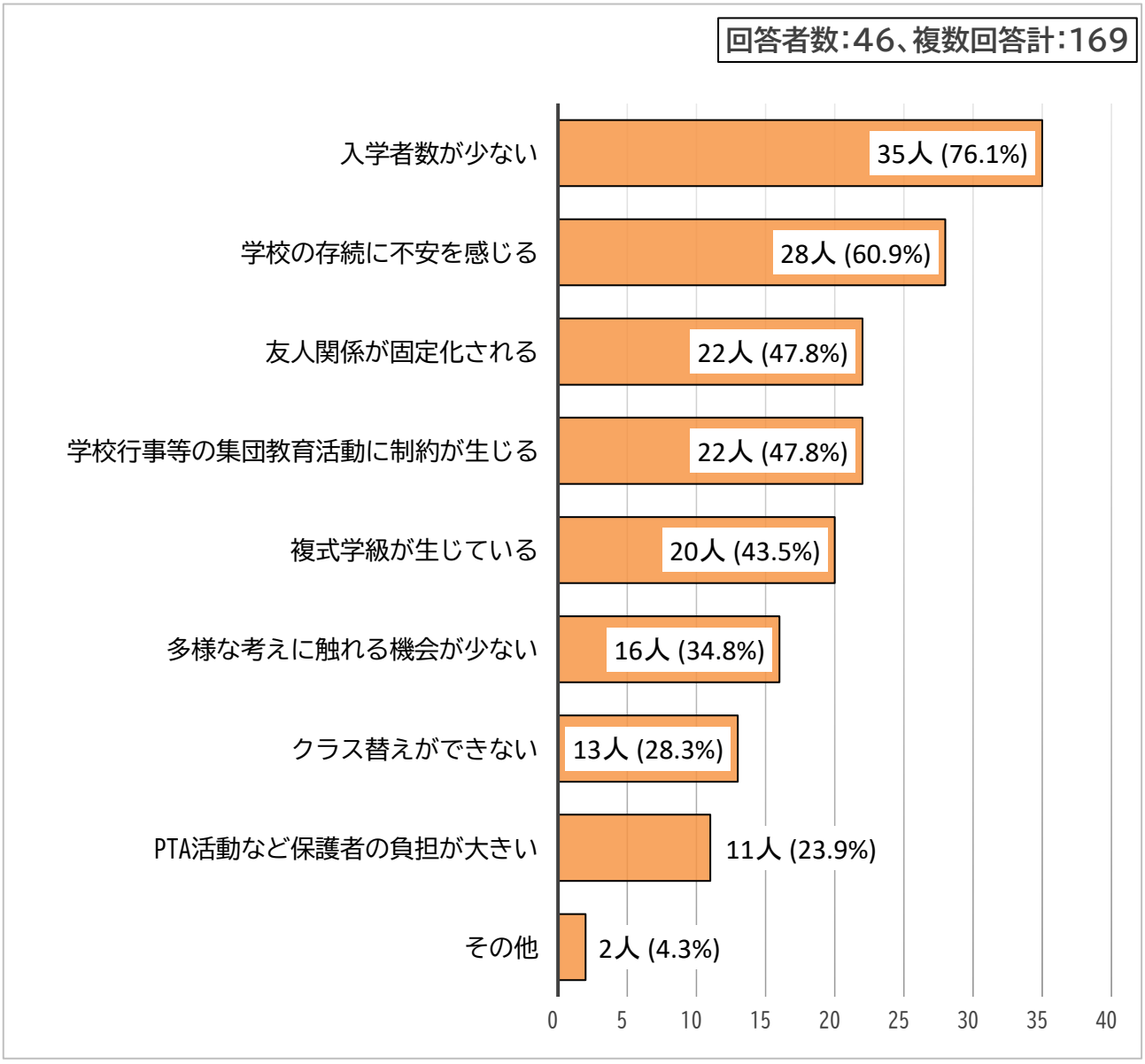
特に、未就学のお子様がいる世帯では、「検討するべき」の回答の割合が高い傾向が見られます。





問６-１　検討するべきを選択した理由は何ですか？【複数選択可】

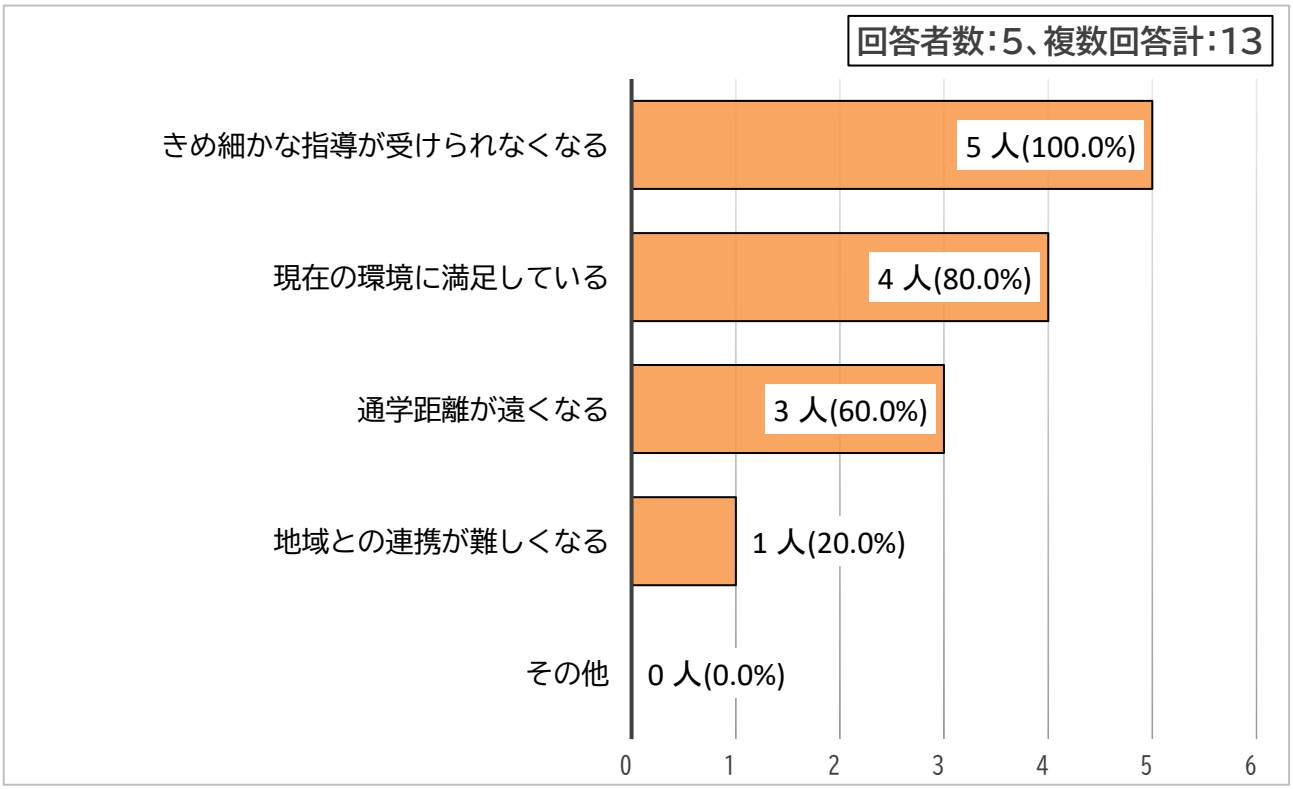
問５で「すぐに検討するべき」又は「将来的に検討するべき」を選択した理由としては、「入学者数が少ない」が最も多く、回答者の 76.1%が選択しています。次いで、「学校の存続に不安を感じる」が多く、60.9%となっています。



＜その他の意見＞	
1	通学範囲を含めた検討が必要
2	児童生徒が激減し増える見込みがないため、小規模校として維持すべきか、統合するか方向性を決めて、地域の保護者の不安を解消する必要がある。

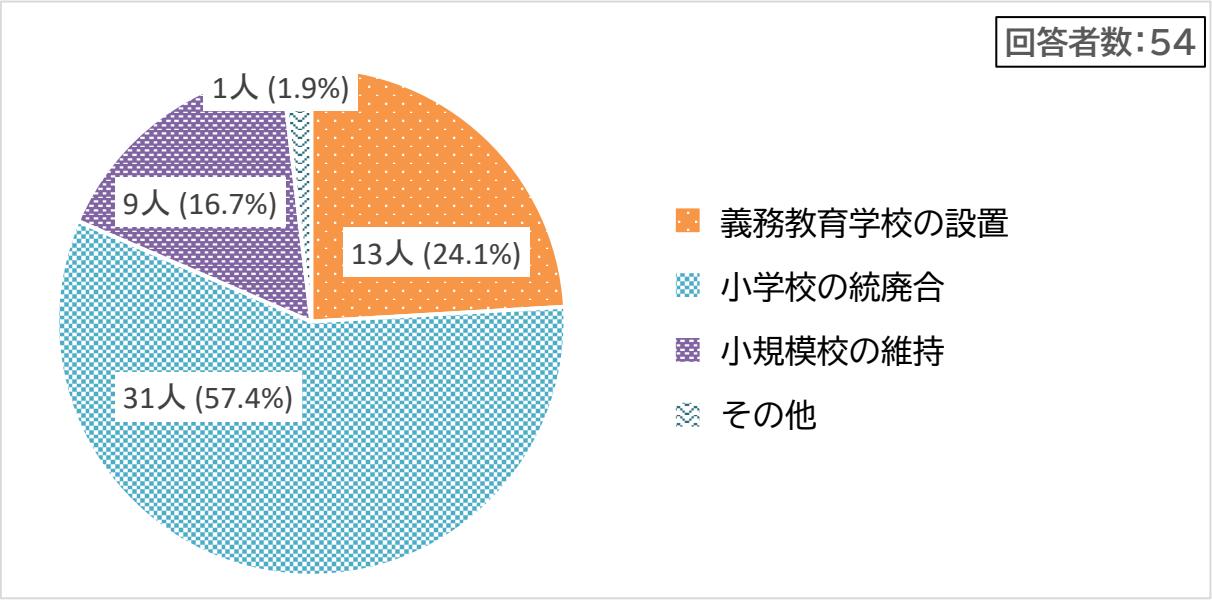
問６−２　検討する必要はないを選択した理由は何ですか？【複数選択可】

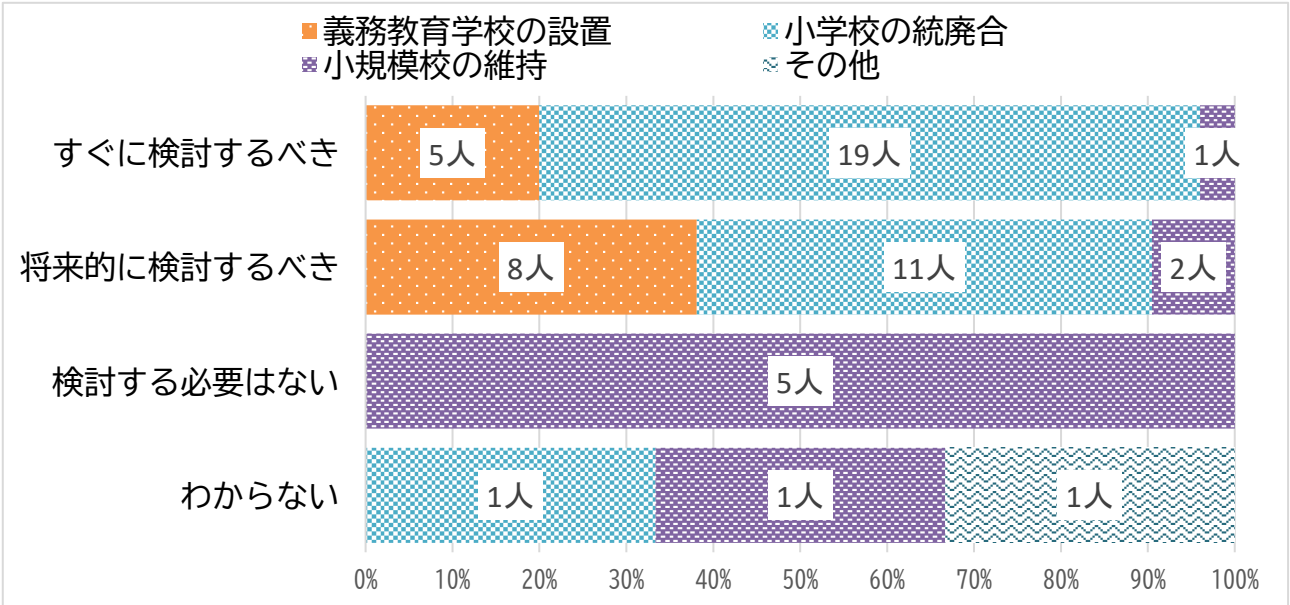
問５で「検討する必要はない」を選択した理由としては、「きめ細かな指導が受けられなくなる」が最も多く、回答者全員が選択しています。次いで、「現在の環境に満足している」が多くなっています。



問７　今後の嘉田生崎小学校の適正配置の対応として、何が適当だと思いますか？

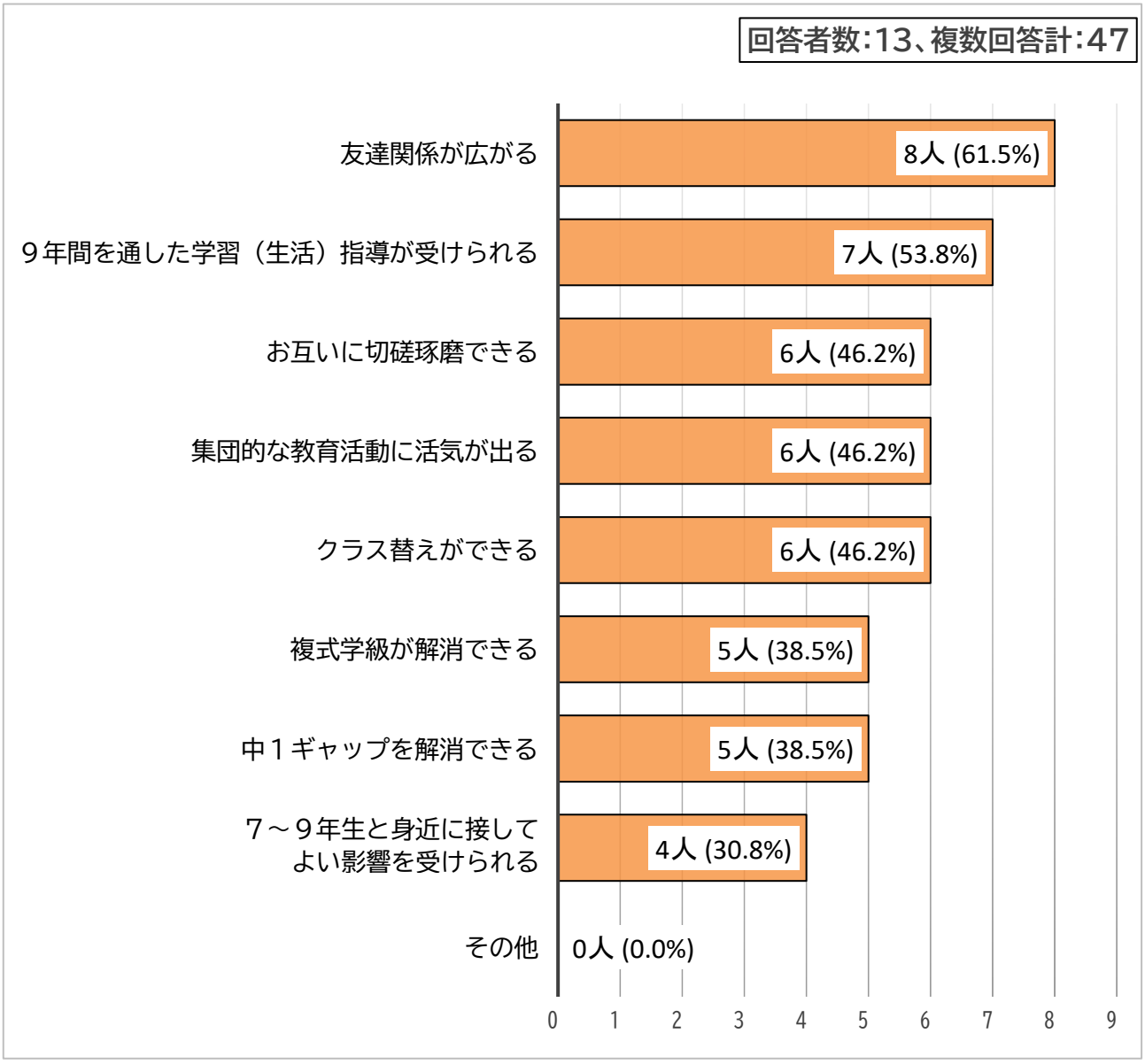
今後の嘉田生崎小学校の適正配置の対応については、「小学校の統廃合」が最も多く、過半数の57.4%を占めています。次いで、「義務教育学校の設置」が24.1%、「小規模校の維持」が16.7%となっています。





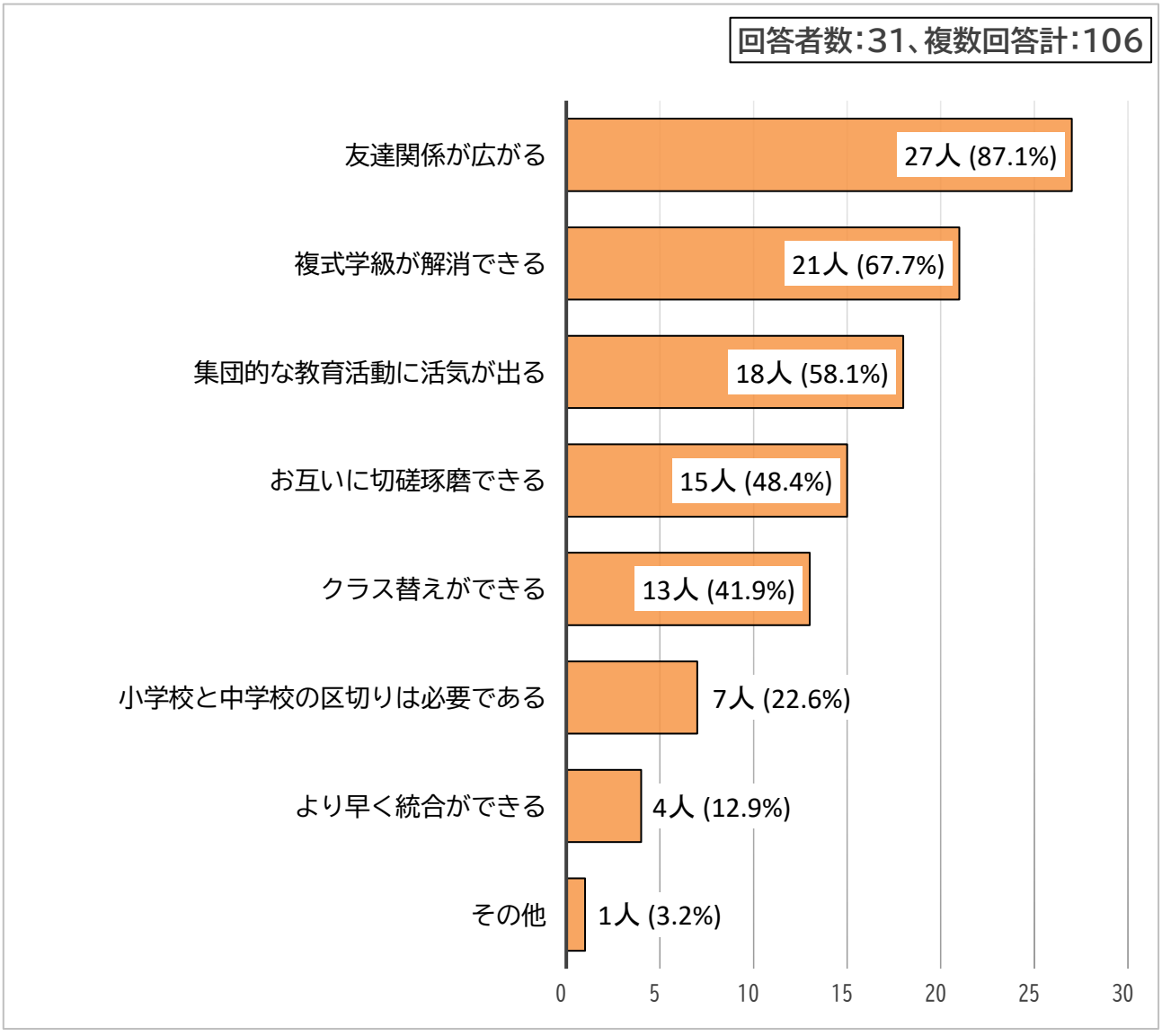
問８-１　義務教育学校の設置を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

問７で「義務教育学校の設置」を選択した理由としては、「友達関係が広がる」が最も多く、回答者の 61.5%が選択しています。次いで、「９年間を通した学習（生活）指導が受けられる」が多く選択されています。



問８-２　小学校の統廃合を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

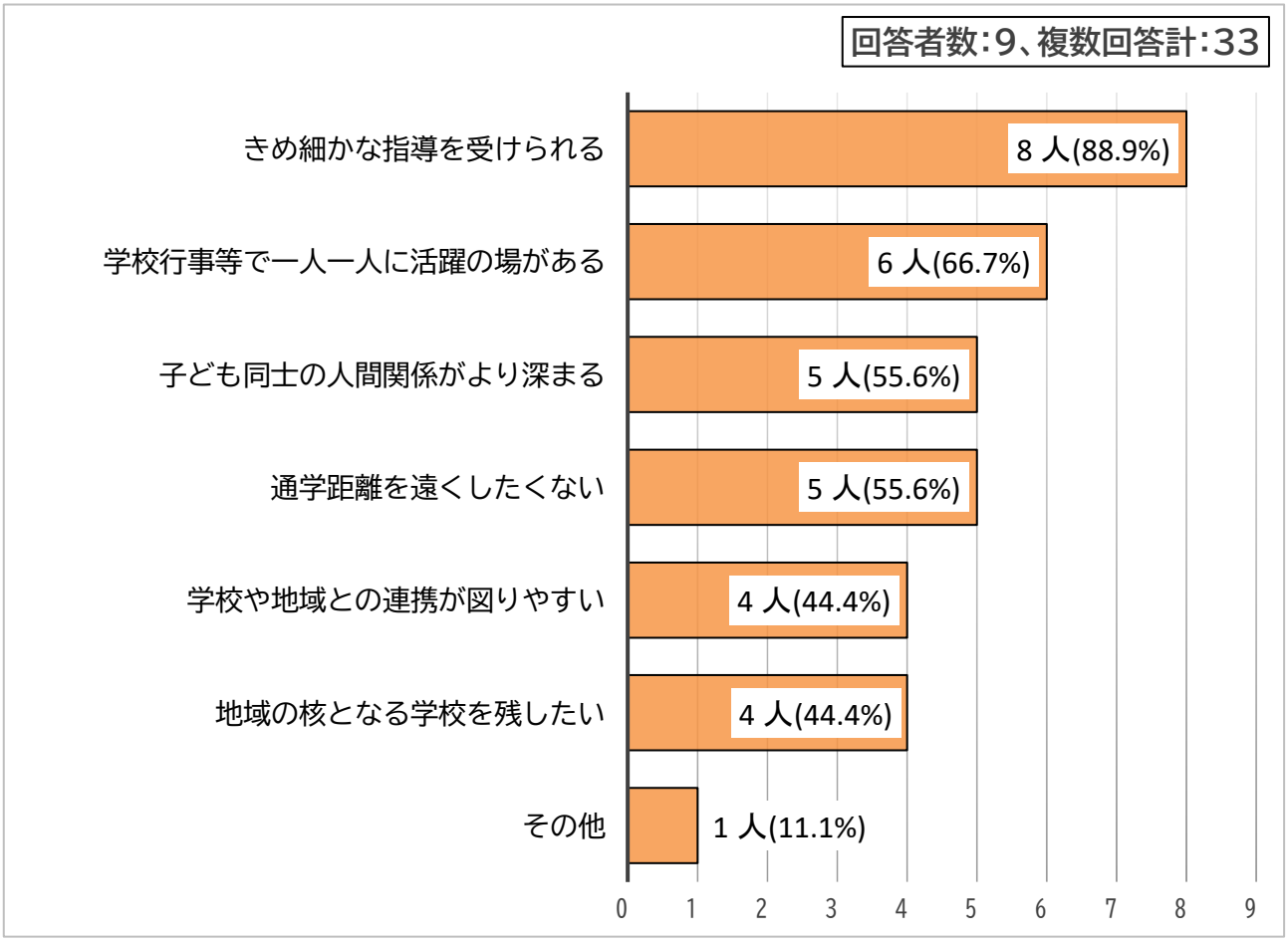
問７で「小学校の統廃合」を選択した理由としては、「友達関係が広がる」が最も多く、回答者の 87.1%が選択しています。次いで、「複式学級が解消できる」、「集団的な教育活動に活気が出る」が多く選択されています。



＜その他の意見＞	
1	少人数制希望だが、今より人数が減るのは子供の負担が大きくなるのではないかと心配

問８-３　小規模校の維持を選択した理由はなんですか？【複数選択可】

問７で「小規模校の維持」を選択した理由としては、「きめ細かな指導を受けられる」が最も多く、回答者の 88.9%が選択しています。次いで、「学校行事等で一人一人に活躍の場がある」が多くなっています。



＜その他の意見＞	
1	すべての学校を一律に適正規模校にする必要はなく、市内で 1、2 校は小規模校を残し、そこで特色ある学習や取り組みを行うことがよいとおもう。大規模校では、導入がしづらいもの小規模校ならやりやすいこともあると思う。いずれにせよ、他自治体と同じくことをしていては、これからの人口減少社会で筑西市は生き残っていけない。

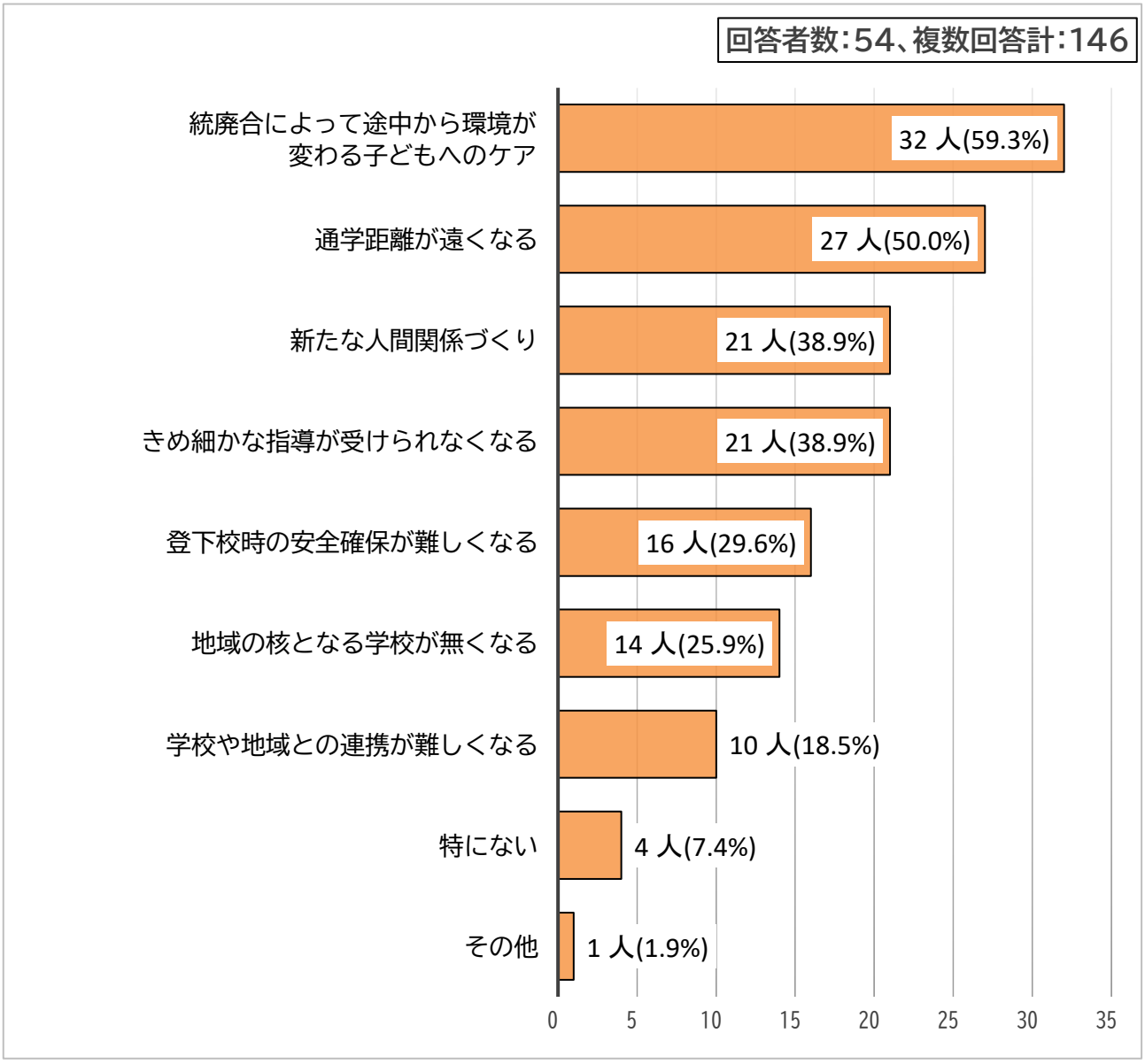
問８-４　その他を選択した理由は何ですか？【自由記述】

回答者数:1

No	回　　答
1	義務教育学校になってしまうと、また建て直しになってしまうので、避けて欲しい。 その分、他の小学校のお手洗いを、整備して欲しい。

問９　適正配置（統廃合等）を進める上で不安なことはなんですか？【複数選択可】

適正配置を進める上で不安なことについては、「統廃合によって途中から環境が変わる子どもへのケア」が最も多く、回答者の 59.3%が選択しています。次いで、「通学距離が遠くなる」が多く選択されています。



＜その他の意見＞	
1	個人が埋もれてしまうのではという不安

問 10　学校の在り方や適正配置について、ご意見がある場合は、自由に入力してください。

No	回　　答
1	どう考えても子供が可哀想。 子供の将来的を考えるならば早くから多数の人間に接して成長するのが一番いい。 筑西市の教育政治は遅すぎる小中学一環にして勉強、スポーツをさらに向上させる方がいいし教員への負担も減ると思う。
2	適正とは何かは、わからないが入学者のいない学校は、存続できない。そのため、廃校になることは、理解できる ただ、すでに方針が決まっている段階で、意見を聞く必要があるため、尋ねられているアンケートのように思われ、答えにくかった。
3	1 クラスの人数が少ないと人間関係、学校の行事に支障がでるので、五葉のように統合して欲しい。 うちの子は統合になったとしても間に合わないと思いますが…… もっと早くそうなってくれたら今後の生活スタイルが変わったと思いました。
4	学校として社会的生活としての人間関係の形成に必要な同年代との関わりは必須だと思う。その中で学生数が少ないと関わる人数、喧嘩、親しみ合い、等の感情の形成に支障をきたす可能性はあると思う。 電子化が進む今の時代、学業も大切だが本当に必要なのは生の人間同士の触れ合いだと思う。 コロナ後、運動会等の行事が短縮されがちだがコロナ前に戻してイベントもしっかりと取り組んでほしい。 運動会を 1 日制にして、みんなで外でお弁当を食べたり、いろんな親御さんとお話ししたり、おやつ食べたりしたい。そこで、家族同士仲良くなれたりすると思う。 行事を増やして、社会との触れ合いを増やしてほしい。 京都府の事件や不審者対策として自宅から遠い地域の学生に関してはスクールバス等を活用するのはどうでしょうか？ 筑西の明るい教育環境とより良い学校生活を願います。
5	将来を見据えたとき、より多くの人と関わり合える環境が、経験や成長につながると思います。統廃合にはさまざまなご意見があると思いますが、ぜひ前向きに進めていただきたいと思います。 少人数の学校を維持することに多くの人員や費用を充て続けるよりも、学校を適正な規模にし、教育の質の向上や子どもたちへの支援の充実に資源を活用していただきたいと考えます。
6	嘉田生崎小学校はとても素敵な学校なので、児童数が増えたら嬉しいです。 しかし、今後増えることはないだろうと感じています。 このまま減少し続け、いずれ統廃合になるのであれば、早めに決断していただきたいなと思います。

No	回　答
7	市の財政負担や今後の児童生徒数を考えれば、すべての学校を存続させることは難しく、ある程度の学校再編はやむを得ないと思います。しかし、児童生徒数が少ないという理由だけで一律に統廃合を進めることには反対です。 人口減少が加速度的に進み、東京を除く多くの自治体が同じ課題に直面している中で、筑西市がこれからも人に選ばれる自治体であり続けるためには、他自治体と同じことをするだけではなく、筑西市ならではの特色ある取り組みが必要ではないでしょうか。 例えば、嘉田生崎小学校のような小規模校を小規模特認校として残し、少人数だからこそできる特色ある教育や先進的な取り組みを行い、その成果を市内の学校へ広げていくような役割を担ってはどうでしょうか。小規模校を「残すべき学校」ではなく、「筑西市の教育をより良くするモデル校」として位置付けることも、一つの考え方ではないかと思います。 また、嘉田生崎地区では人口が減少する一方で、外国人住民は増えています。日本の文化や地域のルールを理解し、お互いに支え合いながら暮らしていくためには、地域のつながりはこれまで以上に大切になると思います。地域とのつながりが薄れつつある今だからこそ、学校は子どもたちの学びの場であるだけでなく、地域コミュニティの中心となる大切な場所でもあると感じています。 私自身も嘉田生崎小学校の卒業生であり、現在は息子も通っています。大学進学で東京へ出ましたが、自然豊かなこの地域で暮らしたいと思い、県内で就職して地元に戻ってきました。これからもこの地域で暮らし続けたいと思っています。 そのためにも、嘉田生崎小学校を小規模特認校として存続させ、筑西市ならではの特色ある教育を実践する学校として、そして地域コミュニティの中心として長く残していただければと願っています。 何卒、ご検討のほどよろしくお願いいたします。
8	小規模校には小規模校のよさを感じているが、続けていくには学校の在り方も変える必要があると思う。他の学校とは違った柔軟な教育は難しいのか。また、入学志願者を増やす工夫はないか。登下校時のバスの送迎を検討するのはどうか。
9	障害がある子への対応が心配(自閉症等の発達障害)将来的に自分の母校が無くなってしまうのがわかるがいざ無くなってしまうと思うと寂しい
10	適正配置もひとつの方法だとは思いますが、まず、学区外の在り方を考え直すべきだと思います。
11	将来的に小学校の統廃合をするべき時は来ると思うが、クラス数の増加での児童や教職員への負担、新たな環境への適応などを考える必要がある。また、一クラスの人数も上限が 35 人とはなっているが、正直その人数は児童へも教員(担任)へも負担が大きいと感じる。クラス数のみならず、クラスの人数にも目を向け、統廃合について考えて頂きたい。
12	転校してきて、児童数の少なさに驚きました。 統廃合して、嘉田生崎小がなくなってしまうのは寂しいと思いますが、子供たちの将来を考えると賛成です。 学校行事や活動できる分野も増えると思いますし、統廃合で児童数が増えてクラス替えがあることで、交友関係はもちろんのこと、コミュニケーション力や対応力も上がるのではないかと思います。

No	回　　答
13	自分の子供達はカタオザキが大好きで、その姿を見ていると親としては現状維持出来たら嬉しいです。 全校生徒が仲良く、学校が安全な場所で家族みたいな子供達が感じられるのは、小規模学校だけの特権だと思います。
14	まだ 2 歳の娘ですので、先のことはわかりませんが、現在の住まいから考えても通学するのに距離が遠いため、養蚕小学校を考えています。

【アンケートの前にお読みください】
嘉田生崎小学校の在り方について

令和８年７月
筑西市教育委員会

はじめに

筑西市教育委員会では、学校の適正規模・適正配置について検討を進めています。

この度、現在、**複式学級**が編制されている嘉田生崎小学校の今後の在り方を検討する上での基礎資料とするため、嘉田生崎小学校区の保護者の皆様を対象にアンケートを実施することになりました。

将来を見据え、次代を担う子供たちにとってどのような教育環境が望ましいのか、また、「地域の学校がなくなる不安」や「通学への負担」など、様々なご意見があるかと存じます。本アンケートを通じて、皆様の率直な思いをお聞かせください。

本資料は、現状の課題と今後の検討の方向性をまとめたものです。**アンケートへの回答にあたり、ぜひご一読ください。**



※ 複式学級とは…
２つ以上の学年で構成される学級のことです。異なる学年が同じ教室で授業を受けます。
複式学級の基準は、引き続く２つの学年の児童数の合計が 16 人（１年生を含む場合は８人）以下の場合です。

１．児童数・学級数の現状と推移

本市の児童数は、全国的な少子化の影響を受け、著しく減少しています。特に、嘉田生崎小学校においては、一部の学年で「**複式学級**」が編制されるなどの状況にあります。

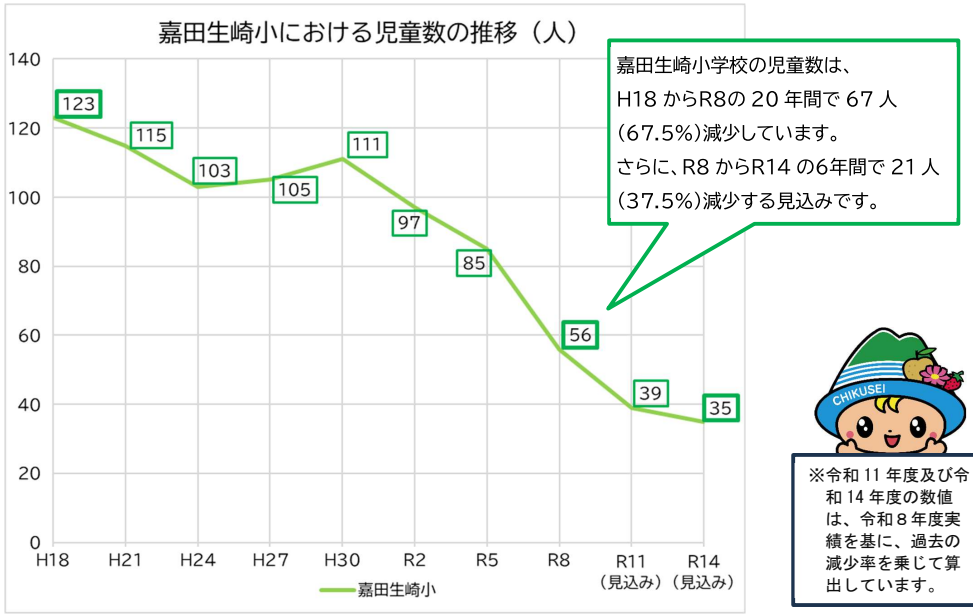
■ 年度別児童数・学級数

学校名	令和８年度（R8.5.1 現在）		令和 14 年度（見込み）	
	児童数	学級数	児童数	学級数
嘉田生崎小学校	56	5	35	4

■ 年度別学級数の内訳

年度	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
令和８年度	1	1	1		1	1	5
令和 14 年度	1	1		1	1		4

※ 　は、複式学級



２．筑西市の基本方針と複式学級における課題

筑西市では、子供たちが社会性や多様性を育むために必要な「適正規模」を以下のように定めています。

小学校	クラス替えが可能である各学年２学級以上となる**１２学級以上**
中学校	クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる**９学級以上**

また、複式学級については次のような課題が指摘されており、早急に必要な対応を行うものとしています。

複式学級で指摘されている主な課題

● 直接指導時間の不足

先生が一方の学年を教えている間、もう一方の学年は課題学習となり、直接指導できる時間が少なくなる。また、先生は複数学年分の教材研究・指導準備を行うことになり負担になる。

● 集団教育活動の制限

運動会などの学校行事、音楽活動やグループ学習などの集団教育活動に制約が生じやすく、多様な学習・指導形態が取りにくい。

● 切磋琢磨する機会の不足

多様な考え方や意見に触れ、同学年の仲間と刺激し合って、学習意欲や運動能力を高める切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。

3．今後の取り組み例

参考に、取り組み例を示します。

パターン	1）義務教育学校※の設置	2）小学校の統廃合	3）小規模校の維持
	同じ中学校区の、中学校・小学校を統合し、義務教育学校を新設する。	他の小学校と統合する。	現状（小規模校）を維持する。
特徴	**○ 複式学級の解消** 児童数が増えることで、複式学級の解消が期待される。 **○ 学校行事や集団教育活動の活性化** 学校行事がより盛大になり、集団教育活動に活気が生じやすい。また、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 **○ 豊かな人間関係の構築** 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすく、多様な考えに触れる機会が多くなりやすい。 **○ 健全な競争意識の醸成** 集団の中で切磋琢磨することで、一人一人の資質や能力を伸ばしやすく、社会性や協調性を育みやすい。		**○ 児童へのきめ細かな教育と指導** 児童一人一人に対する教員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 **○ 児童一人一人の個別活動機会の確保** 学校行事等において児童一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 **○ 異学年との交流機会の確保** 児童間の人間関係が深まりやすい。学年を越えた活動が多く異学年交流が促進されやすい。 **○ 地域コミュニティの核** 保護者や地域住民との連携が図りやすく、交流が活発となり、学校が地域の活性化に貢献することが期待できる。
	○ ９年間を見通した系統的な教育課程の編制 小学校と中学校が目指す児童生徒像を共有し、９年間の系統性・連続性のある教育課程を編制できる。 **○ 「中１ギャップ」の軽減** 連続性のある教育によって、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中学１年生になったときに新しい環境での学習や生活に不適応を起こす「中１ギャップ」を軽減しやすい。	**○ 小学校と中学校の区切りによるメリハリ** 入学・卒業の区切りがあることで、成長や自覚を促すことができ、小学校高学年の時期にリーダーシップを発揮する機会を多く設定しやすい。また、固定されがちな人間関係が再構築されやすい。 **○ 比較的、早期・低コストでの統合が可能** 既存校舎の活用を前提とするため、義務教育学校のように新校舎の建設等がなく、比較的、工期や費用を抑えて統合することができる。（一部既存校舎の改修を行う可能性あり。）	

※　義務教育学校とは、小学校と中学校の義務教育９年間を一貫して行う学校制度の一つです。小学校にあたる前半６年を前期課程、中学校にあたる後半３年を後期課程と呼び、中学１～３年生は７～９年生と呼びます。

4．学校施設の老朽化問題

市内の小中学校の校舎・体育館の多くは昭和 40～50 年代に建築されています。できるだけ施設を長持ちさせていく（長寿命化）計画としていますが、コンクリートの寿命などを考慮して建替時期の目安を 70 年とすると、令和 20～30 年代に一斉に建て替え時期を迎えることになります。

これらをすべて現在の規模で維持・更新することは、将来的に大きな財政負担となる見通しです。

小学校	建築年度	築年数
養蚕小学校	S 43～55 年度	46～58 年
大田小学校	S 46～56 年度	45～55 年
嘉田生崎小学校	S 44～56 年度	45～57 年



参考：筑西市のこれまでの取り組み

H27．7　「筑西市小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定
H27．9　「筑西市学校の在り方検討委員会」を設置
H31．2　義務教育学校・明野地区準備委員会を設置
R元．9　「学校の在り方」下館北中学校区保護者協議会を設置
R５．4　下館北中学校と下館中学校を統合
R６．1　学校の在り方検討委員会からの「協和中学校区において、義務教育学校（施設一体型）の設置、又は小学校統合による適正配置を検討すること」、**「適正規模を満たさない小学校について、将来的な義務教育学校（施設一体型）の設置を目指しつつ、必要に応じて小学校統合による適正配置を検討すること」**との答申を受け、基本方針を改定
R６．4　明野五葉学園（義務教育学校）を開校
R７．2　義務教育学校・協和地区準備委員会を設置